昭和大学歯学部だより 2015. 1号

通算134号
2015. 1. 31発行

発行責任者:歯学部長　宮崎　隆，編集責任者:広報委員長　中村　雅典
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ:　http://www.showa-u.ac.jp

輝かしい年になりますように

歯学部長　宮崎　隆

新しい年がスタートしました．今年は終戦70周年の記念の年で，年末年始の報道番組で敗戦からの復興の歴史が紹介されていました．医療においても先人のご努力で我が国は高い水準を獲得しました．一方で，歯科医療は急速な少子高齢化，疾病構造の変化，医療保険制度の財源，歯科医師の需給問題などの問題に直面しています．しかし，国民の長寿健康に歯科医療のさらなる貢献が求められており，私たちは勇気をもって，社会の要請に応える歯科医療人の育成を進めなくてはいけません．

本学は大学を挙げて教育改革に取り組み，チーム医療教育を推進してきました．全寮生活をベースにした初年次教育，学部連携の演習や病棟実習，全学の附属病院を利用した教育体制など他大学では真似のできない教育を実践しています．PBLチュートリアル制度や電子ポートフォリオを導入して学生の能動的学習を涵養してきました．卒業時の臨床能力についてもコンピテンシーを明確にしました．これらの新しい教育の成果は着々と出ています．今年度の卒業判定では，自信を持って96名全員の卒業を判定しました．卒業生が全員国家試験に合格し，医療人として大成することを期待しています．

明日の歯科医療の進歩のためには，それを牽引する研究が必要です．本歯学部では総力をあげて，重点研究プロジェクトを推進してきました．今年度で終了のプログラムを含めて，現在文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として，「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点の形成」，「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」および「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の3つのプロジェクトを進めています．今年度の成果発表会を3月28日（土）に開催しますのでご参集ください．

東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けてスポーツ医学への関心が高まっていますが，本学では藤が丘リハビリテーション病院にスポーツ運動科学研究所を設置することになり，歯学部からもスポーツ歯学として参画することにしました．チーム医療への貢献が期待される分野ですので，新しい研究を進めていく所存です．

チーム医療教育の延長には現場でのチーム医療の実践が必要です．本学では他大学に先駆けて，「口腔ケアセンター」を設置して，全附属病院で入院患者の口腔ケアを行ってきました．昨年の改正で周術期の口腔機能管理が保険収載されたので，より専門性の高い口腔ケアを推進していきます．また，昭和大学病院，藤が丘病院，烏山病院，横浜市北部病院に加えて，昨年度開院した江東豊洲病院にも歯科を開設しました．各病院では歯科口腔外科を院内標榜し，院内はもとより地域との医療連携にも力を入れていきます．北部病院で順調に稼動しているマタニティー歯科を江東豊洲病院にも開設し，成育医療の観点から母子健康にも貢献したいと考えています．昨年秋には，口腔外科と耳鼻咽喉科その他の関連診療科による「頭頸部腫瘍センター」が設置されました．本年は大学病院内に専門外来をオープンして本格的に稼動し，歯学部臨床実習にも活用する予定です．

このようなチーム医療は本学の最大の特徴ですが，今年は槙病院長にお願いして，歯科病院の各診療科の専門性を検証したいと考えています．医科の新しい専門医制がスタートすることになり，歯科においても専門医に関する議論が始まっています．歯科病院は教育病院としてだけでなく，地域の中核病院であり専門診療の充実が必須です．

以上のように，新年にあたり，教育，研究，臨床の各分野で，一層の発展を期して輝かしい年になるようにしたいと思います．関係者のご理解とお力添えを宜しくお願い申し上げます．

行事予定

広報委員長　中村　雅典

1/31～2/1：歯科医師国家試験
2/14：歯学研究科春季Ⅱ期入試
2/15：OSCE
2/15：入試合格者ガイダンス
2/21：選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期入試
3/2，3：新D2オリエンテーション
3/12：iOSCA
3/17：卒業式
3/18：歯科医師国家試験合格発表
3/20：大学院修了式
3/30：新D5白衣授与式

大学院春季Ⅰ期入試が行われました

大学院運営委員長　井上　富雄

12月6日に標記の大学院入学試験が，外国語（一般英語および科学英語）および専門科目について実施されました．一般選抜13名（本学出身者12名，他大学出身者1名），社会人特別選抜1名（本学出身者）が受験し，それぞれの試験科目に真剣に取り組んでおりました．12月18日に合格発表があり，受験生全員の合計14名が合格しました．合格者数は，昨年度の春季Ⅰ期入試と同様（一般選抜12名，社会人選抜1名）となりました．春季Ⅱ期入試は，平成27年2月14日（土）に行われます．出願期間は平成27年1月13日（火）から2月4日（水）で，今春に卒業予定の6年次学生も出願対象となります．本研究科は，毎年平均して30人強の入学者を受け入れており，優れた研究成果を数多くあげております．また，専門医取得を希望する大学院生に十分な臨床実習と専門医取得の準備を行うことを可能にするために，平成25年から専門医コースを設置しています．優秀な大学院志願者がさらに大勢受験し，本研究科にて未来の歯科医療を拓く優れた研究者に育っていってくれることを願っています．

3年生臨床シナリオ・学部連携 PBL が実施されました

歯学教育学部門　片岡　竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人の養成」をキーワードとして，4学部連携教育を推進しています．4学部が連携して初めて臨床的なシナリオを用いる「臨床シナリオ・学部連携PBL」が昨年12月5日(金)，11日(木)，16日(火)に旗の台キャンパスと横浜キャンパスで医歯薬3年生，保健医療学部2年生の計600名が参加して行われました．リウマチやパーキンソン病の患者を主題としたPBLで，4学部の学生が専門分野の知識を基に，ディスカッションを行い，患者さんが有する問題を様々な視点で見て，患者さんや家族の問題の全体像をプロブレムマップという形にして，グループで共有しました．次にグループとして患者さんに対する治療・ケアについて考えました．未履修の内容も含まれるシナリオでしたが，学生は真剣に取り組み，グループの力を合わせて，患者さんの有する問題を共有し，治療・ケアプランを考え，発表会では，大半のグループが与えられた時間では足らない程内容が充実した発表を行いました．

学生は1年次に富士吉田で学部連携PBLを経験していますが，皆2年間の成長をお互いに驚き，専門的知識を身につけた仲間を尊敬しあう場面が多くみられました．さらに，各グループで学部（職種）の代表として，責任を持って発言することの重要性に気づき，医療人としての自覚が生まれたという声も多く聞かれました．

4年生では「病棟実習シミュレーション・学部連携PBL」を実施します．病棟で使用している医師カルテ，歯科医師カルテ，薬剤管理記録，看護記録などを基に作成した模擬診療録をシナリオとして，4学部学生が患者さんの問題点を共有し，治療・ケアプランをグループで作成します．

チーム医療教育の仕上げは，5年生が参加する「学部連携病棟実習」です．昭和大学附属病院の延べ120病棟で4～5人の4学部学生グループが入院患者さんを1週間担当させていただく実習です．本実習では学生グループが臨床実習を通じて収集した患者さんの医療情報を共有した上で，患者さんにとって望ましい治療ケアプランを病棟の医療スタッフに提案をします．

患者さんが有する問題を4学部学生のディスカッションを通じて多面的に把握し，信頼できる情報源を用いて問題解決をはかる能力は，「クリティカルシンキング」と呼ばれ，欧米では歯学部生が必ず身につけるべき能力として重要視されています．是非PBLを通じて，患者さんの全身状態のみならず社会的な背景も考慮した上で、他の医療職と協働してよりよい医療が提供できる歯科医師になってもらいたいと思います．

口蓋裂ボランティアに参加しました

歯科矯正学講座　佐藤　友紀

ウズペキスタンでの口唇口蓋裂手術のミッションに昭和大学の形成外科医とともに参加しました．ウズペキスタンは旧ソ連に属し，カザフスタンやアフガニスタンといった隣国に囲まれ，海にでるまでに二回以上国境を越える二重内陸国です．今回はボランティア団体Smile　Aaiaからの招聘で日本，シンガポール計8ヶ国の多国籍チームとなりました．スタッフは形成，麻酔，小児，看護士，カメラマンといった専門に加え地元のボランティア総勢80人前後です．TVやラジオを

聞いて治療希望者が集まります．一人一人検査し5段階に優先順位をつけるのが最初の仕事です．希望者全員の手術を行うことはできません．手術を受けられるのは団体の基準にそった患者さん，症状が軽すぎては優先順位が低くなり，重すぎても適用外になります．手術後翌日には退院が基本です．スクリーニングの結果，80件程度の手術を行うことになりました．可能なかぎりたくさんの手術ができるようオペのスケジュールはパンパンです．手術台は3台，一日20件の手術を行わなくてはなりません．看護士さんがピリピリしています．3日目ともなると皆疲労の色が浮かびました．

矯正歯科医である私の仕事は歯科検診と手術の

アシスト，歯科処置，低体重児の哺乳床の作製などなど．メインは外科医で歯科医は私一人！“私の専門は矯正です．”なんて言ってはいられません．今回は手術の合間に大学で講義も行いました．なんども手術ができないこの国ではいかに効率的で効果的な手術を行うための矯正・歯科治療が大事かなど話しました．講義終了後，若手医師がたどたどしい英語で「形成外科医になったら，絶対矯正医と一緒に働くよ！」とか「将来顎顔面矯正医になりたい！」など口々に感想を述べてくれ思わず顔がほころびました．現在ウズペキスタンには口唇口蓋裂に詳しい矯正医は，ソ連時代の70歳過ぎのご老人1人だそうです．現地で手術を行うことは必要ですが，それ以上に専門医を育てる教育の必要性を感じた瞬間でした．

昨今，歯科医過剰といわれる日本ですが，世界で私達がしなくてはいけないことが，まだまだあるのではないでしょうか．

マルチドクターブログラム説明会が開催されました

大学院運営委員長　井上　富雄

平成26年11月25日に3研究科合同でマルチドクタープログラム説明会が，3，4，5学年在籍者対象に開催されました（参加者：歯学研究科7名，医学研究科5名，薬学研究科7名）．加藤薬学運営委員長の全体説明の後，各研究科に別れて説明を行いました．このプログラムは，次世代の研究者を育成するために，学部在籍中に，基礎歯学研究に触れるとともに大学院科目を受講し，一部単位を取得するものです．2年間で最大で8単位が取得でき，大学院修了要件の単位数に算入できます．現在，4年生2名，5年生5名，6年生5名が本プログラムに参加しています．登録料は3万円，授業料は年間5万円で，本プログラムを継続する場合は，次年度以降の登録料と授業料はともに免除されます．出願期間は，1月6日（火）から23日（金）で，面接試験が2月14日（土）に実施されます．多くの応募をお待ちしています．

新学生指導担任制度説明会が開催されました

歯学部学生部長　上條　竜太郎

本学には，全ての学生が充実した学生生活を送り，勉学や諸活動に専念できるように支援，指導する目的で「学生指導担任制度」が設けられております．従来は学生を学部別，学年別にグループとし，専任教員が指導を行って参りました．この度，本制度をより充実した制度とし，本学の特色である学部連携教育の効果を最大限発揮することを新たな目的として設定し，新制度に移行することとなりました．新たな制度では，学部混合で受け持ち学生を割り振り，上級生が下級生の面倒を見る「屋根瓦式教育」を取り入れ，学部間・学年間の繋がりを強化します．同時に，教員一人当たりの受け持ち学生数の適正化を図り，よりきめ細かな支援・指導を可能とします．

本制度の導入に備え，平成26年12月11日より4回にわたり説明会が開催されました．説明会は毎回高い出席率を示し，熱心な質疑応答が繰り返されました．

新たな指導担任制度は，本年4月よりスタート致します．

NHK情報番組「情報まるごと」に出演しました

口腔衛生学部門　石川　健太郎

平成26年12月25日，NHKの情報番組「情報まるごと」に電話出演いたしました．当日は年末年始に多い，「高齢者の餅による窒息事故の原因と対処法」について解説いたしました．高齢者では歯の喪失や口腔周囲筋の筋力低下により，咀嚼機能や嚥下機能が低下します．また，餅は温度が低くなると固さと付着性が増すという特徴を有した食品です．そのため餅を嚥下に適した状態になるまで咀嚼するのに時間を要するようになった高齢者の口腔内では，調理過程で温められた餅が徐々に温度の低下により固く喉に張り付きやすい状態に変化していきます．この状態の餅を飲み込むことで窒息事故が生じると考えられています．餅による窒息事故を予防するためには，一口の量を少なくして，よく噛んで食べることが大切です．特に小児や高齢者では，単独で食べることは避け，家族が見守ることも大切です．

残念ながら今年も餅による窒息事故により高齢者が亡くなられたという報道がありました．窒息事故の防止に向けて，今後も研究，臨床の両面から取り組んでいきたいと思います．

教授総会で IT を活用した模擬授業を体験しました

口腔衛生学部門　弘中　祥司

平成26年12月17日（水）教授会前に，教授会メンバーを対象としましたITを活用した模擬授業が行われました．近年の教育形態の発展はめまぐるしく，教員が板書して学生は講義を聴く形式だけではなくなっております．本学でもPBL教育からいろんなITを用いた教育が始まり，現在ではクリッカーを用いた双方向型の授業形式など，学生の理解度を確認しながら行える点で評価も高いです．今回の模擬講義は，教育推進室の片岡竜太教授を中心とした，北海道医療大学・岩手医科大学・地域歯科医師会との合同ワーキンググループで作成した教育コンテンツです．2年前から本学歯学部3・4年生に実際に行っている講義の圧縮版を模擬講義で行いました．

3年生用の教材は私が，4年生用は口腔病理の美島健二教授がそれぞれ実演しました．本教材は，基本的に反転授業形式になっており，反転授業とは通常の講義とは逆に，先に学生に課題を出して，自己学習を促し，講義の中でその課題の何が重要なのかを解説し，講義前後の客観試験で到達度を計る新しい講義方式です．私たち2人とも反転授業形式に基づき，教授会メンバー全員に事前学習課題を行ってもらってからノートPC上で課題や講義内容，仮想患者（VP）等に取り組んでもらいました．事後アンケートはおおむね良好で，教授会ならではの嬉しい指摘があり，今後も改善に取り組んで行きたいと思っております．ご協力いただいた先生方に感謝申し上げます．

認定医・専門医取得

広報委員長　中村　雅典

・細胞診歯科専門医：安原　理佳　助教
・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士：
石﨑　晶子　助教

編集後記

口腔解剖学講座　野中　直子

入試シーズンのお忙しい中，原稿を執筆いただきました先生方に深く感謝いたします．

本年も元気いっぱいの昭和大学でありますように！